

せいけん 詩集 第二百  
十篇

近藤せいけん

## 「ターチの挑戦 その3」

本厚木駅前ほんあつぎえきまえのベンチに腰掛こしかけて心の響びきの

会かい話をつづけている 通とおりをゆく人ひとには 何なにも聞きこえない

「天神てんじんさま それでは私わたしの願ねがい」

「どうしたら実じ現げん出で来きるのですか」

「どうしたらこの苦境くきやうから脱出だつしゅつできるのですか・・・」

少すこし間まがあいてから 返事へんじが響ひびいた

「頭あたまで否ひ定的ていなこと マイナスな事ことを考かんがえていると

虜とりこになつてしまふよ」

「おまえの若わかい情熱じやうねつじや やる気きじやよ

今いまのおまえであれば 全すべての望のぞみは 何なんでも実現じげんできる」

「自分の望のぞむものに チャレンジ 挑戦ちやうせんじやよ」

「ほら 立ち上たがつて 前まへへ前すすむのじや

必かならず望のぞみものに出逢であうはずじや」

「ターチ 良い名なじや」

「おまえの人生じんせいはおまえ自身みづかが

作つくるもの おまえ次第しだい 楽たのしめ あははは」

若者わかもの ターチは元氣げんきが出てきた すくっと 立ち上たがり

「よし やるぞ 精一杯せいまいぱい 生いきるぞ」

「おれの人生じんせい このおれの手てで作つくるぞ」

若者わかものの挑戦ちやうせんが 始はじまる

